

• 目的

[短期]

レポートの書き方等、
情報リテラシーを学ぶ

[長期]

図書館の"きること"を
知ってもらい、今後の
利用につなげる。

• コンセプト

図書館に親しみを
持ってもらおう。

• 対象

1回生

• 時期

6月

・ 実施体制

教員と連携携

授業の課題として

図書館ツアー

・ 交効果

図書館への理解

図書館の活用増加

講習会 関連

① データベース
使方を大卒の学生が
知りた → 折角知れば
使われない

② 論文の書き方講座
など

③ 求める資料を探す
方法についての講習
→ ガイダンス以外にも
輪屋に受けられるもの
(web等)

初年次教育の
データベース使方等
講習会に参加しよう。
→ 見学に使って、
使おうと気持しよう。

レポートの書き方等。
(本探訪等)
講習会をいろいろ

図書館の使い方
を教える。今後の
学習に役立てよう

自身のリテラシー
能力も気が付く
機会

ラーニング・ジョイナスとの連携

課題

様々な活動への参加率が低い。

課題

ラーニング・ジョイナスで使う学生が一部に限られている。

アクティブラーニング”スペースの活用について考える

ピアサポートの推進

ピアサポーターの育成

ラーニング・ジョイナスとの連携管理が滞りため、図書館との関係性を図りたい。

課題

学年、学部、または学生・教員の垣根をこえた、知の交流拠点としての場づくり(ミニ授業、読書会の開催など)

授業との連携

ディスカッション形式の
授業を増やす。

授業に図書館が
関わろう

学習環境、
授業環境の
整備を促す

初年度教育の開始において、
授業制作チームを確立して、
必要知識を高いレベルで確保し、
担当教員の積極的サポート

課題 学生への
情報リテラシー教育の普及
図書館、教員、インナー

正課との
連携

デジタル教材作成、ICTを
用いた授業への関わりを促す。
(e-learning)

現在の e-learning システム
を用いた情報リテラシー教育。
各授業のコンテンツとして
掲載可能。

言葉

図書館にまでもう方法。
様々な教材解決でもう機会も
認りたは。

課

図書館の貸出冊数が
少ない。

言葉

スマートフォンの活用
QRコードも体、アクセス
してもうと面白いサービスも

本のカバーを
付けたら肉架に
並べる。

言葉

QRコードの読み取り
詳細も